

ちゅうおうこうぞうせんこてたにろとう
中央構造線小手谷露頭A・B

●所在地／大平 ●所有者／個人

地質学上有名な中央構造線の中の一露頭である。中央構造線の活動は5回あったとされているが、ここは第3回目の活動（約3千万年前）を示す地点である。

A露頭は、中央構造線の北側の和泉砂岩層^{いずみさがん}が隆起して南側の緑色片岩層^{りょくしょくへんがん}の上にかぶさっている。隆起したときに起った熱で破碎変質した、約20m幅の黒色の層もはっきりとみることができる。黒色の層中に約20cmの石灰岩^{せっかいがん}が混入している。

B露頭は犬寄大橋^{いぬよせ}のたもとにあって、右の方の淡緑色の岩板状の層が緑色片岩層で、左の方が和泉砂岩層、これは風化して黄褐色となっている。その間の灰黒色の層が破碎層である。



露頭A



露頭B